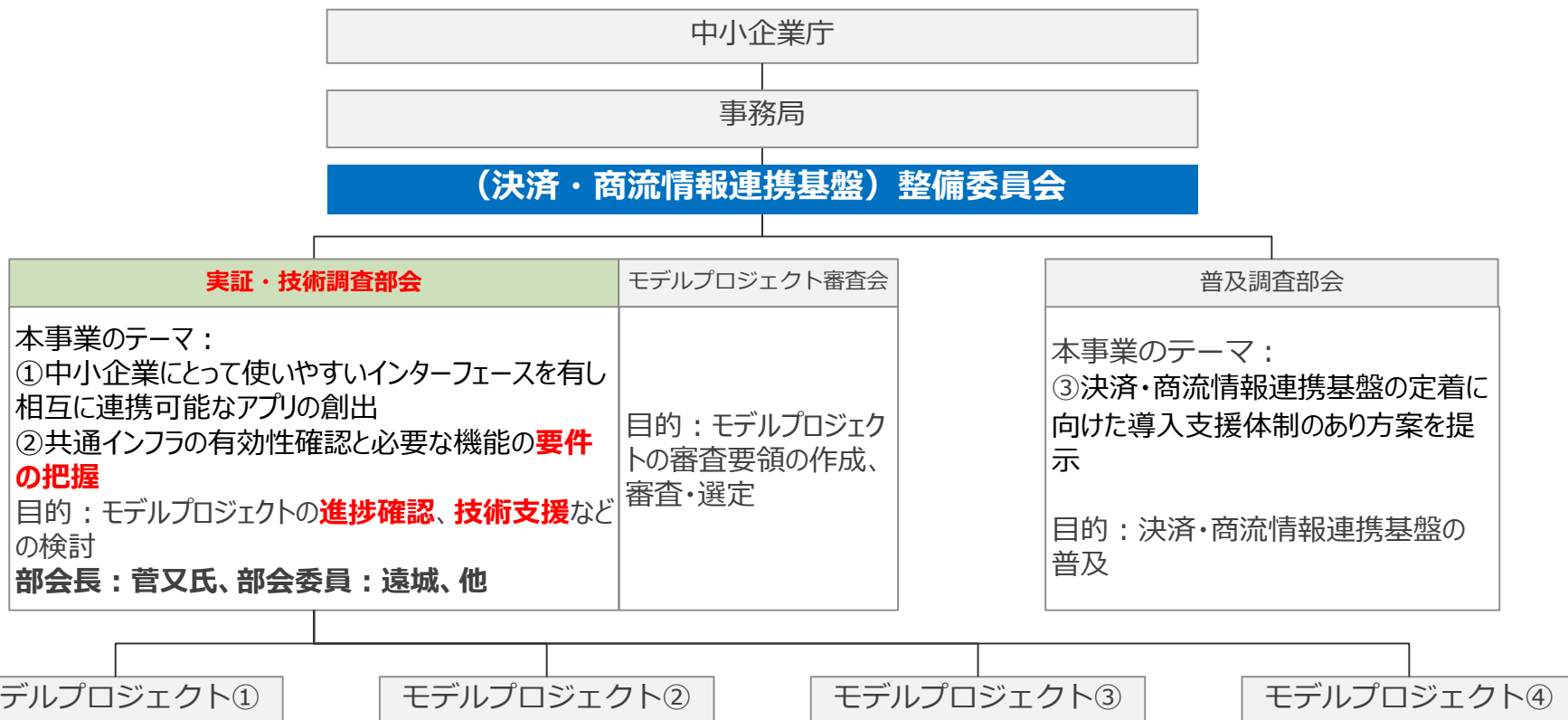


中小企業・小規模事業者決済情報管理支援事業における 技術的課題について

国連CEFACTバリデーション領域コーディネータ
遠城 秀和
(NTTデータシステム技術)

本事業の体制：実証・技術調査部会



②共通インフラの必要機能要件の把握：決済・商流情報連携基盤拡張の課題

実証テーマ（１）：ZEDI及び協力企業のシステムとの連携実証

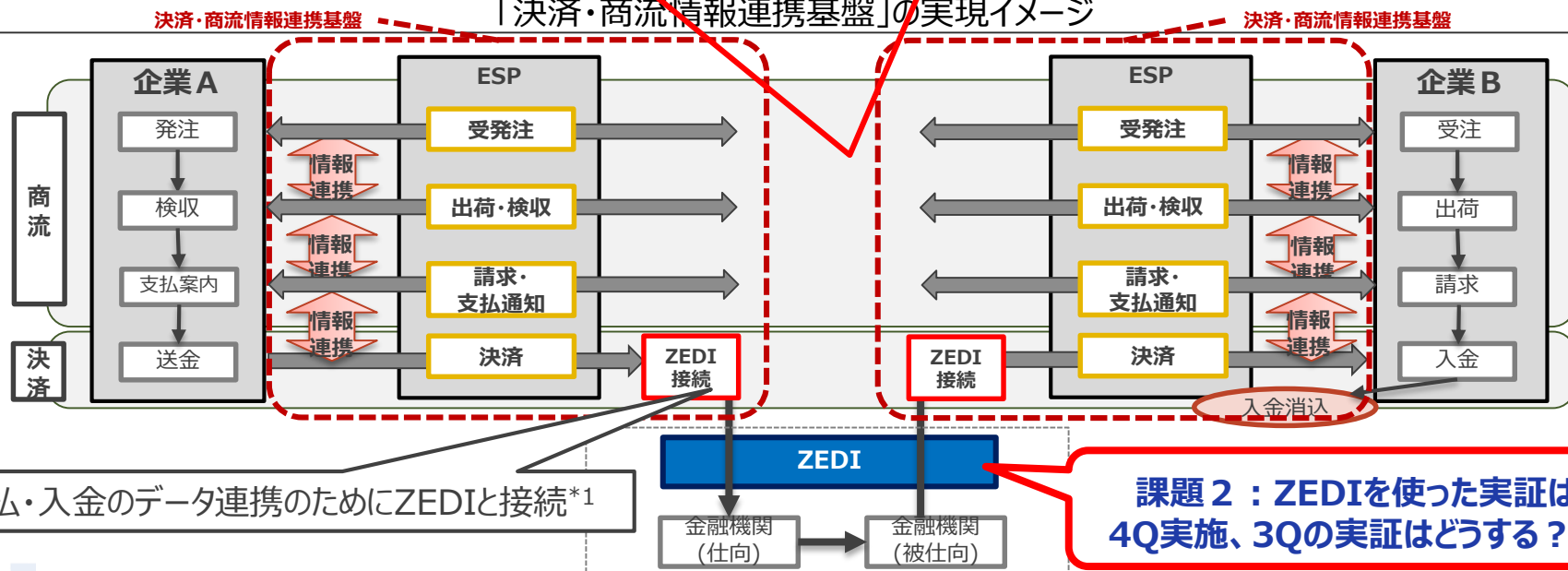
受発注から請求・支払会計処理の業務情報全体をデータ連携させる仕組み^{*1}（決済・商流情報連携基盤）を用いた生産性向上効果の実証

実証テーマ（２）：決済・商流情報連携基盤同士の連携実証

決済・商流情報連携基盤を提供するものが協力し相互連携性を高める^{*2}ことを目的とした実証

課題１：中小企業共通EDIと個別EDIはメッセージが異なりつながらない^{*2}

「決済・商流情報連携基盤」の実現イメージ

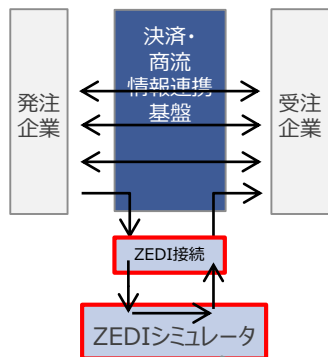


② 共通インフラの必要機能要件の把握：実証検証実施のパターンと新たに必要となる機能

- ✓ 本事業における実証検証は、（１）ZEDI及び協力企業との連携実証、（２）決済・商流情報連携基盤同士の連携実証の２つ
- ✓ このため、ZEDIへ接続する「ZEDI接続」機能、課題２の対策となるZEDIサービス開始前の実証に用いる「ZEDIシミュレータ」、課題１の対策となる中小企業共通EDIと個別EDIをつなぐために異なるEDIメッセージを変換する「メッセージ変換」機能の開発が必要

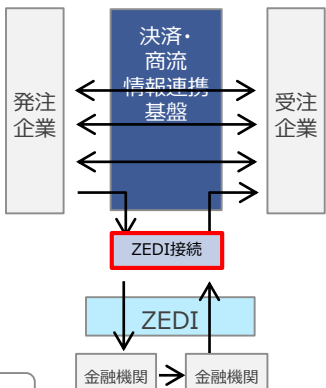
（１）ZEDI及び協力企業との連携実証

（イ）ZEDIシミュレータを使用した実証



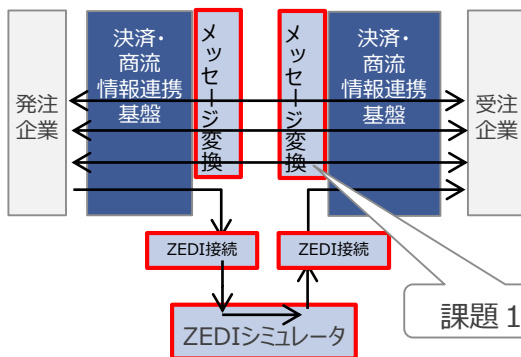
課題２の対策

（ロ）本番ZEDI・金融機関口座を使用した実証



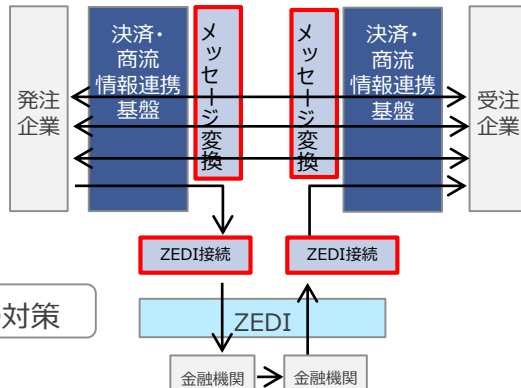
（２）決済・商流情報連携基盤同士の連携実証

（ハ）ZEDIシミュレータを使用した実証



課題１の対策

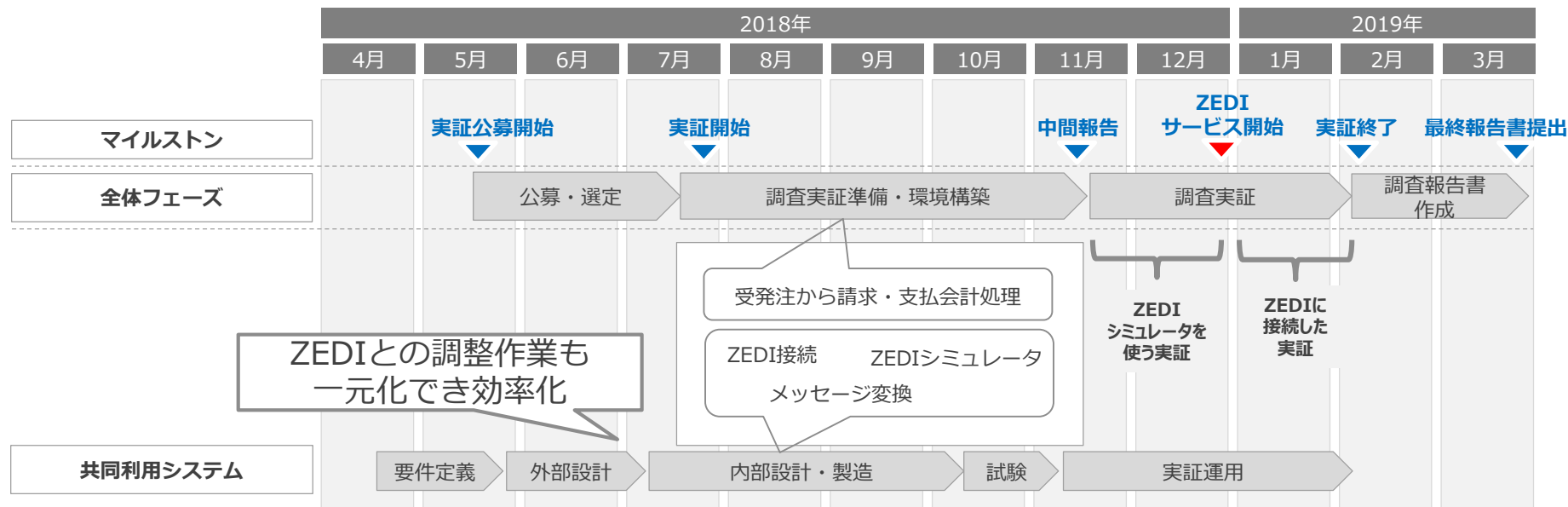
（ニ）本番ZEDI・金融機関口座を使用した実証



- ✓ 同じ機能を全てのモデルプロジェクトが実装するが、いいだろうか？

環境構築の期間が足りない

受発注から請求・支払会計処理、ZEDI接続、ZEDIシミュレータ、メッセージ変換の全てを各モデルプロジェクトが作るのは、**構築期間が不足しそう**、また稼働やコスト的に**非効率**



- ✓ モデルプロジェクトは受発注から請求・支払会計処理の実装に注力
- ✓ 新たに必要となる「ZEDI接続」、「ZEDIシミュレータ」、「メッセージ変換」はまとめて実装し、モデルプロジェクトは利用

② 共通インフラの必要機能要件の把握：決済・商流情報連携基盤の方向性と実現イメージ

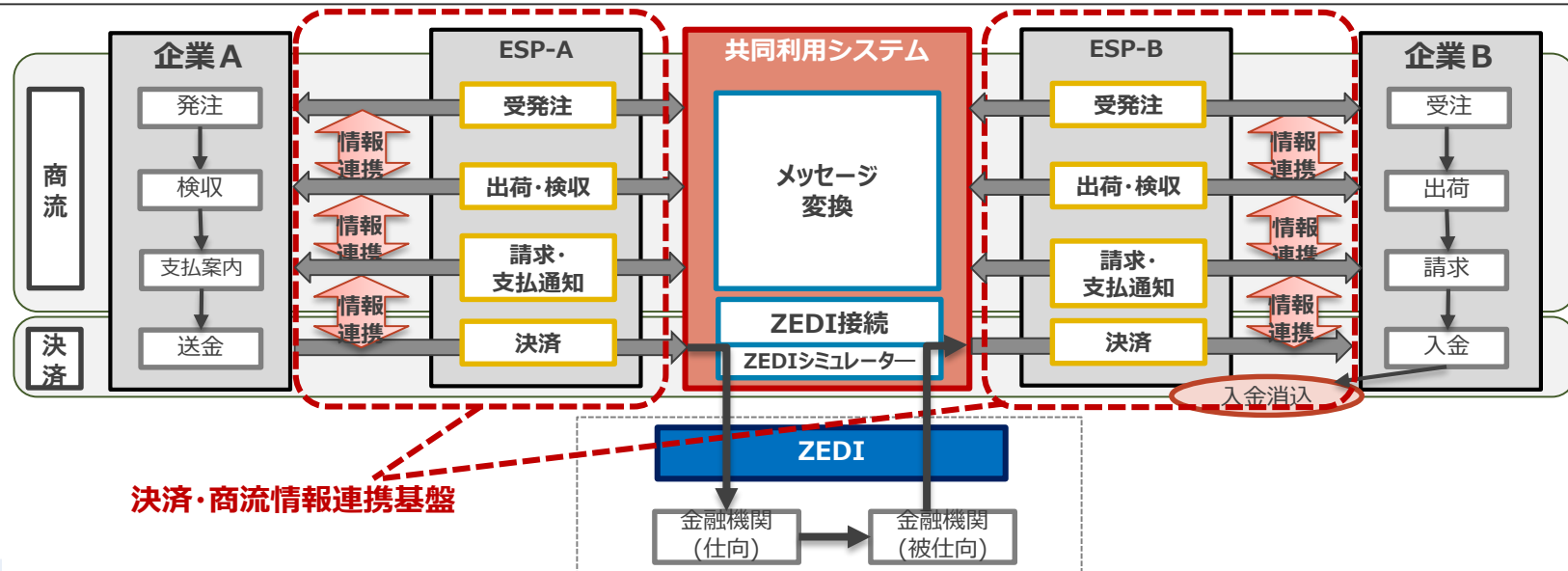
全体最適化の視点から、メッセージ変換、ZEDI接続、ZEDIシミュレータを共同で利用可能にする基盤（**共同利用システム**）が有効。

✓ EDI・アプリケーションサービスプロバイダー（ESP）が、中小企業に使いやすいインターフェースの業務アプリを提供し、企業間の受発注から決済に至るまでの情報を連携。

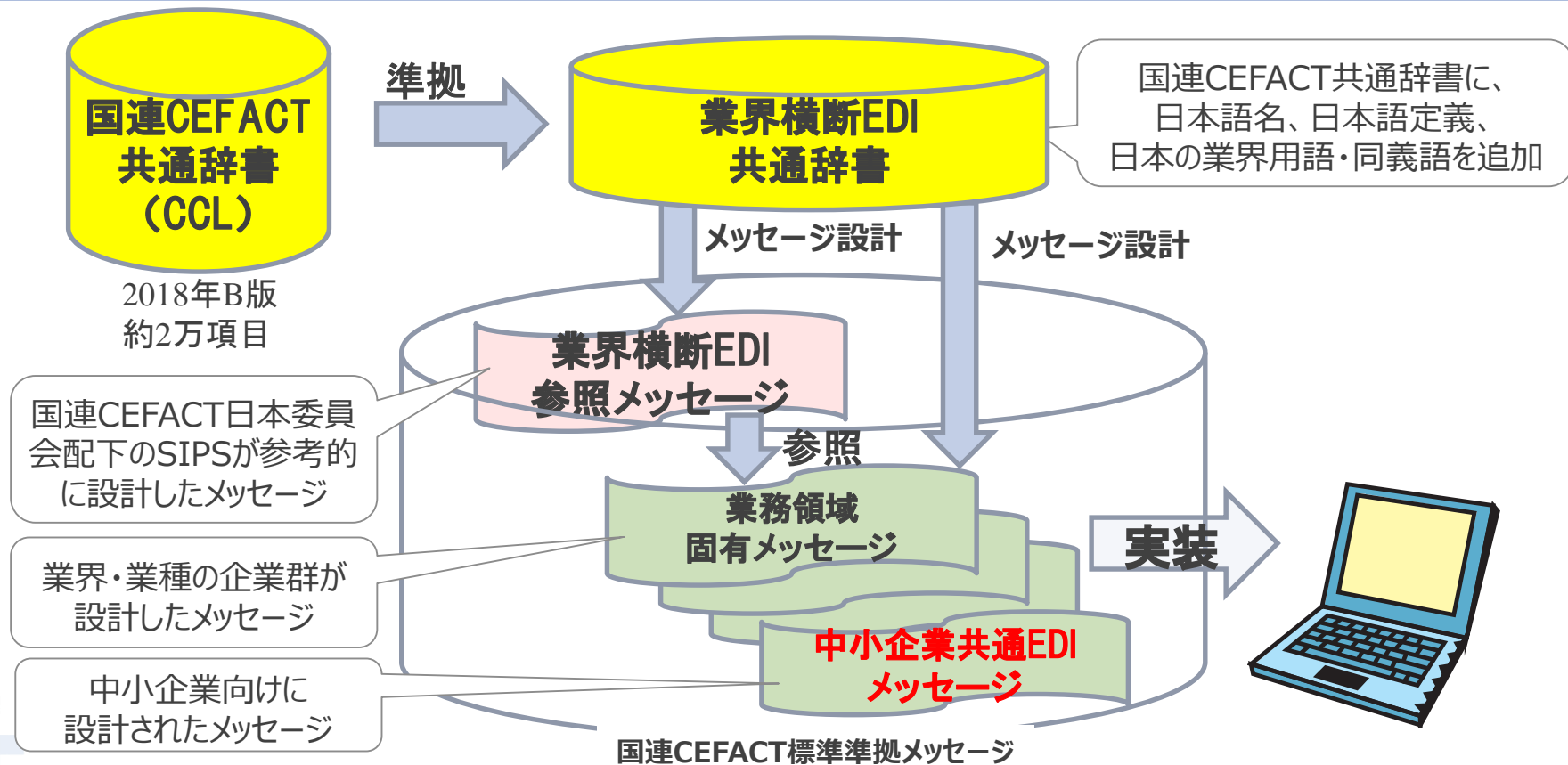
✓ 共同利用システムが、ZEDIとの接続、異なるEDI・アプリケーションサービスプロバイダー間のメッセージを変換。

テーマ②の対象

「決済・商流情報連携基盤」の実現イメージ

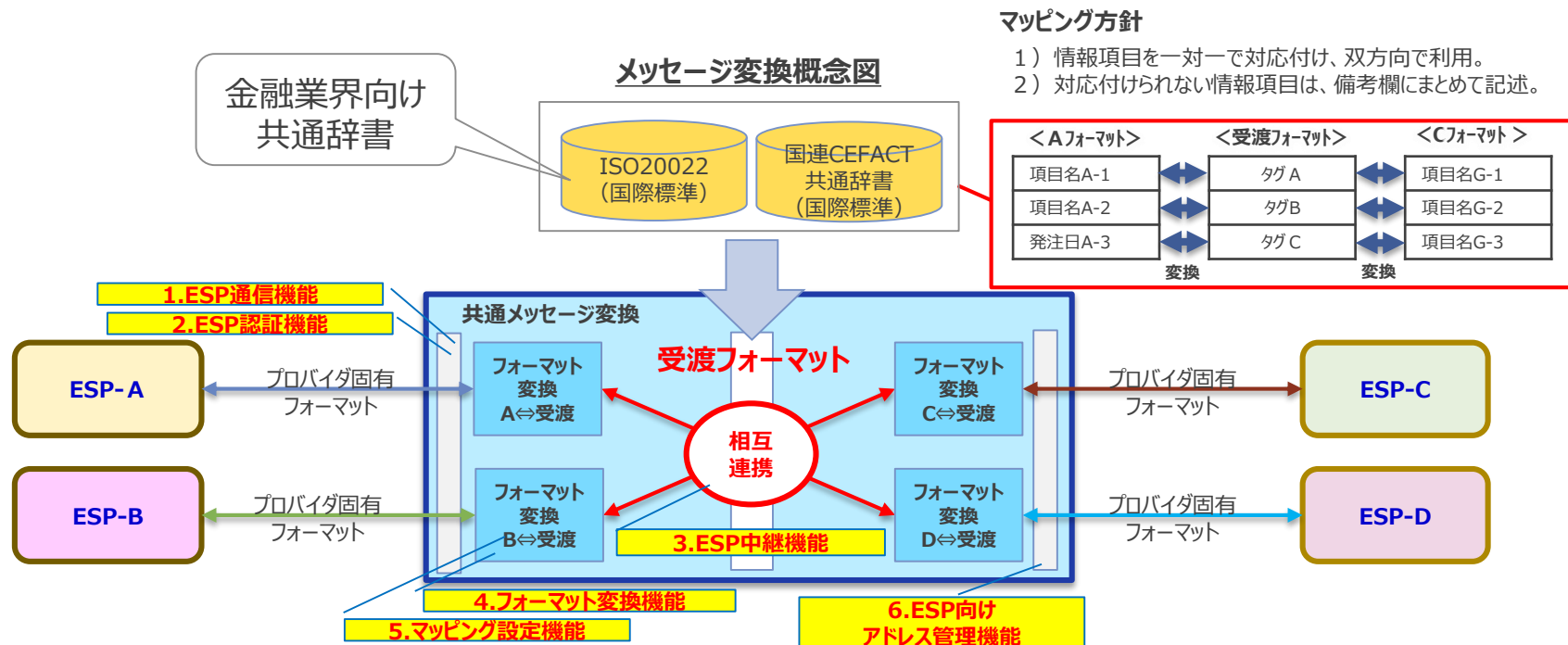


メッセージ変換の要件：国連CEFACT標準準拠の業界横断EDI仕様管理体系



メッセージ変換の要件：決済・商流情報連携基盤同士の情報連携支援機能

「共通メッセージ変換」では国際標準準拠のタグを用いた受渡フォーマットを介し、EDI・アプリケーションサービスプロバイダー間の異なるフォーマットの相互連携を実現する。



メッセージ変換の要件: 共同利用システムが授受する決済メッセージへの商流情報のマッピング

決済情報

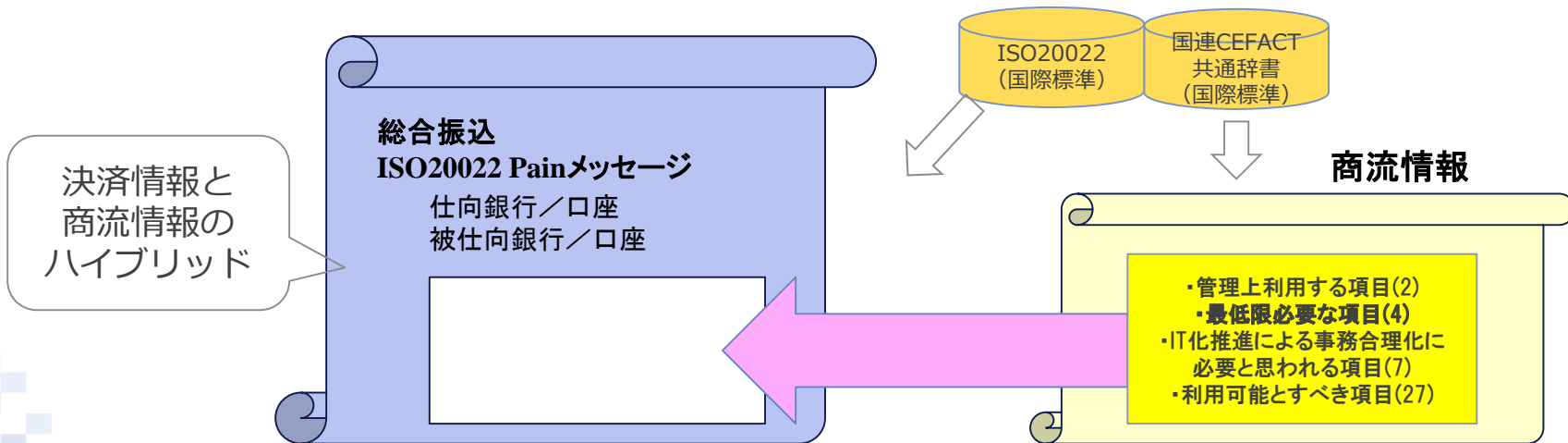
総合振込: ISO20022 Pain.001
入出金取引明細: ISO20022 Camt.052
振込入金通知: ISO20022 Camt.054

ZEDIが採用している国際標準のXMLメッセージ

商流情報(EDI情報)

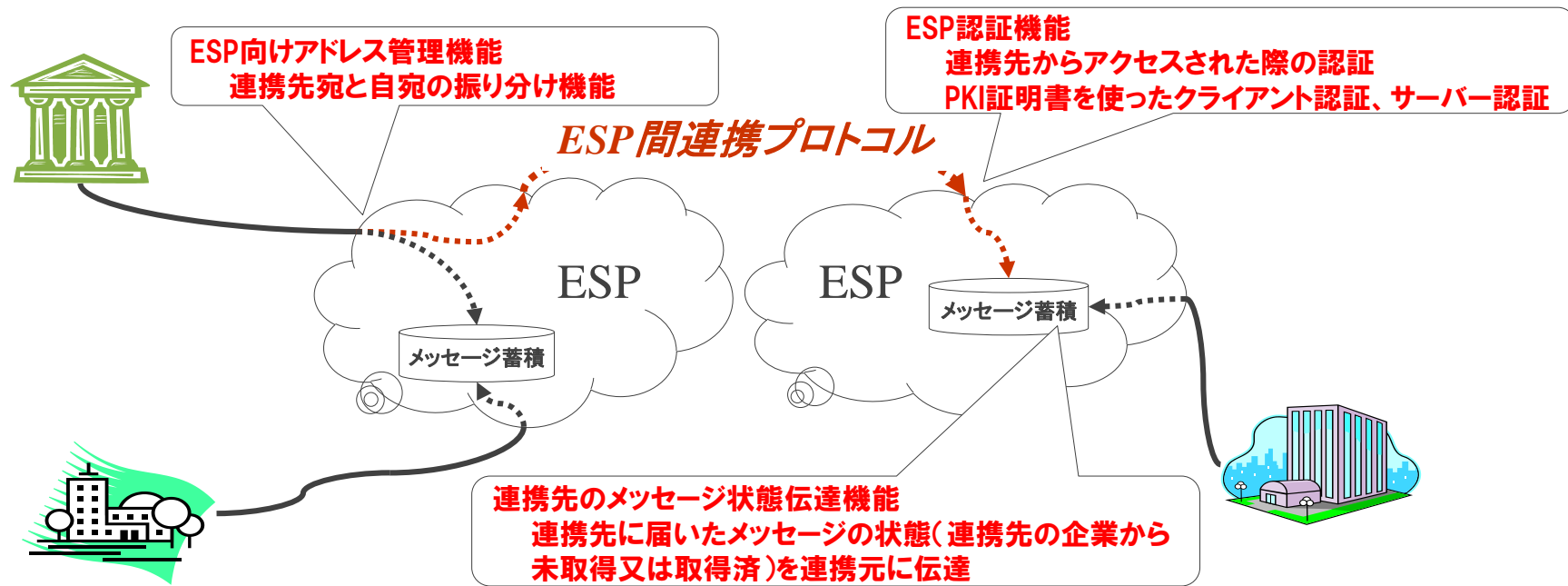
支払入金消込に有益と選定された40個の情報項目(必須4項目)

国連CEFACT支払通知(Remittance Advice)メッセージのタグ(XML形式)



ESPを連携させる通信技術(ESP間連携プロトコル)

SOAP上に定義されたESP間連携プロトコル使い、各ESPは共同利用システムの「メッセージ変換」、「ZEDI接続」および「ZEDIシミュレータ」を利用



注) ESP間連携プロトコルは公募要領別紙で各ESPも実装を依頼した。

注) 各ESPや共同利用システムが実通信に必要な設定事項 (ホストアドレス、ポート番号、証明書など) は事務局が整理共有を図った。

